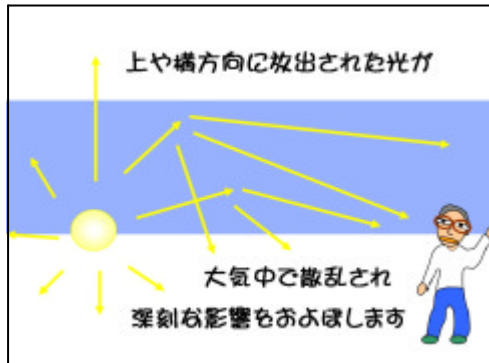


光害（ひかりがい）をなくそう！

「星空」は残された自然を測る バロメーター です！！

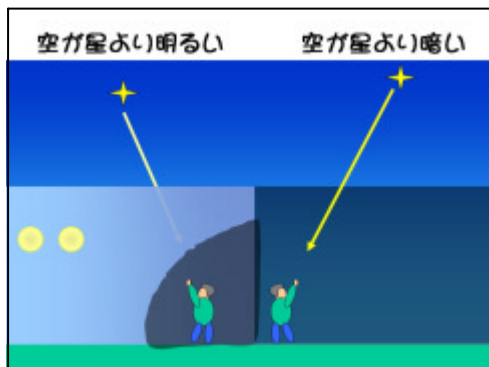
身近な問題 = 「防犯灯」の改善に取り組みました

熊本県民天文台、城南町 よかところ よかまち ふるさとネット、城南町役場



西暦 2000年、私たちは「光害」(ひかりがい)への取り組みを始めました。

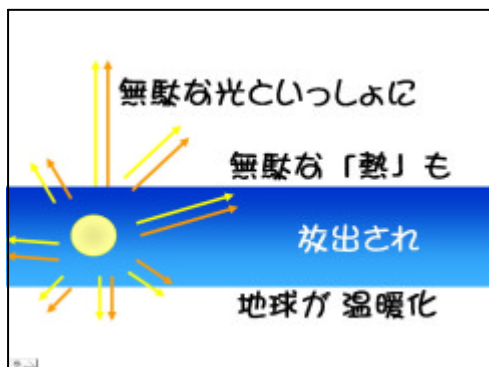
熊本県下益城郡城南町には、「熊本県民天文台」というユニークな天文台があります。1982年に県内のアマチュア天文愛好家たちが募金活動をして天文台を建設し、一般の方に毎晩公開するという活動を始めました。天文台は、今年の5月で満20周年を迎えます。



下益城郡城南町は、熊本市から南へ、わずか19Km。車では20分から30分の、すぐ隣の町です。でも、農業を中心に栄えてきた町でしたので、豊かな環境が残され、見上げれば美しい天の川が見える町だったのです。しかし、近年、熊本市のベッドタウン化が進み、大型商業施設などの進出が進むと、町の夜空は格段に明るくなり、特に熊本市方向の北の夜空はぐっと星の数が減ってきました。



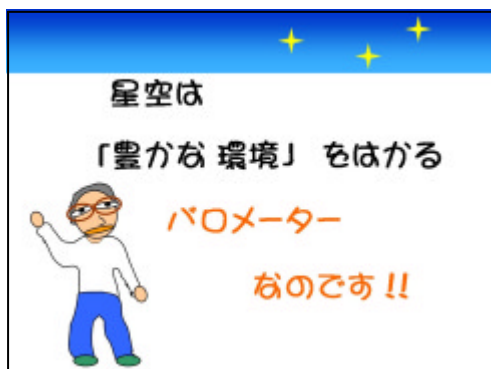
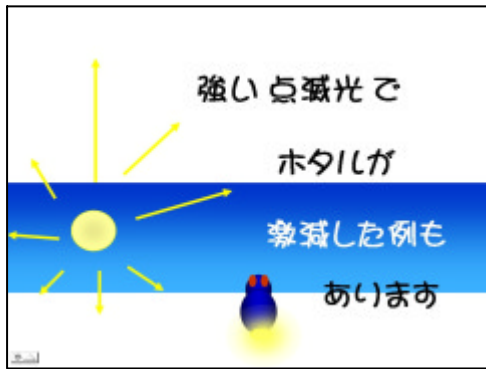
同時に、農業用水路の改修や防犯灯の設置などに伴って、水路に生息していた蛍が姿を消したり、交通事故死するタヌキが増えたり、あれこれと身近な自然環境の変化が目につくようになりました。



「星空の見える」環境を何とかして保全したいと考える私たちは、町民の自主的な町づくり団体「ふるさとネット」と連携して、町づくりのためのいろんな討議や学習を重ねました。

最初の行動は、一緒に町内の夜間照明について調査を行うことでした。調査では、城南町の「火の君総合文化センター」という施設が、「無駄な光を出さない」設計であること、国道沿いの中心商店街の街路灯も「上方光束ゼロ」であることを発見しました。しかし、その他の照明は大変に問題の多いものだったのです。

そこで、私たちは「環境に配慮した照明を広げる」ことへの取り組みからスタートすることにしました。



まず最初は、これまで、「光害」に対して積極的な行動をとってこなかったことへの反省も含めて、「光害」についての啓発活動を重視、地域のロータリークラブに相談し、推薦を頂いて、県内各地のロータリークラブで説明をさせていただき、あわせて、「ふるさとネット」として、城南町の新10カ年計画に向けて「星空の見える町づくり」という提言を行いました。

2001年夏には、これらの行動が効果を産み始め、城南町で防犯灯の改善に取り組もうという動きが現れました。町長を始め総務課の積極的な取り組みをいただき、城南町に設置される防犯灯を、星空や農作物に影響を与えない「環境配慮型」の機種として採用したいという基本的な方向を目指しました。

照明器具メーカーにも参加していただき、推奨機種の点灯試験を行い、評価だけでなく改良テストにも取り組みました。その様子や結果については裏面の資料を参照してください。

2002年 月、城南町では、上方光束ゼロまたは5%以下の防犯灯が採用されることになりました。

この一連の取り組みを通じて、上方光束を制限することの必要性は、「星空を守る」為だけではないことに多くの方が気づきました。私たちは、夜間照明の漏れ光がもたらすグレア（まぶしさ）の悪影響について認識を深める必要があります。

また、「光害」の問題は「後処理」ができない環境汚染として真剣に対処しなくてはならないことも分かってきました。

いっぽうで、「光害」とその対策は、（たとえば、上方光束ゼロの照明器具を設置して点灯するなど）、目で見ればすぐにその効果が分かるという特徴があります。

私たちは、こうした視点から、

- 1) 「光害」についての啓発活動を重ねること。
- 2) 「上方光束」をおさえたい「環境配慮型」照明器具の設置を推進する事を通して、住民自らが参加できる環境改善活動を工夫すること。
- 3) 活動の成果を、「美しい星空が見える」生活環境として実感できるよう、「天体観望会」などを行うこと。
- 4) 他の環境保全の活動との連携をはかること。

をとおして、豊かな町づくりを進めていきたいと考えています。

発表者： 熊本県民天文台 艶島 敬昭

E-mail: stardust@mx7.tiki.ne.jp

<http://astro.magma.ad.jp>